

## 第20回会津血液研究会抄録

日時：2023年6月28日（水）19時～20時30分

場所：会津若松ワシントンホテル，会津若松市

オンライン同時開催

### <一般演題>

薬剤師によるがん化学療法副作用マネジメント  
～PHR（Personal Health Record）は副作用管理に有用か～

竹田綜合病院 薬剤科 室長

木本 真司

近年のスマートフォンの普及により高齢者にも手軽に利用できる医療用アプリが実用化している。また海外からは電子患者日誌の利用により，がん患者の生存期間や化学療法期間の延長に有意な効果を示したとの報告もある。当院でも Welby 社製の患者症状を入力する『マイカルテ ONC Pro』と患者-医療者間で即時に情報交換ができる『Pro Connect』を用いて，日常生活の副作用管理を行っている。特に外来がん化学療法においては副作用が生じた際に早期に介入し対処しなければ重篤化することが少なくなく，最近では免疫チェックポイント阻害剤の登場でよりきめ細やかな日常における患者状態の把握が重要である。

本講演では，医療用アプリを通じて患者発信の情報をいかに収集し共有できるかを事例を用いて紹介しその有用性と課題を論じたい。

### <特別講演>

#### WHO 分類第5版とリンパ腫のトピックス

東海大学医学部基盤診療学系病理診断学 教授

中村 直哉

昨年, Blood 誌 (ICC 分類) と Leukemia 誌 (WHO 分類) に相次いでリンパ腫の新しい分類が提案され, 戸惑われた方も多いことと思います。その事情と WHO 第5版リンパ腫分類 (WHO5) の中からトピックスをご紹介します。

B細胞腫瘍：1990年代から Hodgkin/Reed-Sternberg 細胞は胚中心 B 細胞に由来することが知られていましたが, とうとう Hodgkin リンパ腫が B 細胞リンパ腫に含まれることになりました。すなわち, non-Hodgkin's lymphoma が死語になりました。いわゆる double hit/triple hit lymphoma が迷走しています。B-cell lymphoma, unclassifiable, with features intermediate between DLBCL and Burkitt lymphoma (WHO4) から High grade B-cell lymphoma with MYC and BCL2 and/or BCL6 rearrangements (WHO 4+), さらに BCL6 がはずされ, Diffuse large B-cell lymphoma/High grade B-cell lymphoma with MYC and BCL2 rearrangements (WHO5) になりました。この経緯と理由, 疑問点, 東海大学病院のデータをお示ししたいと思います。

T/NK 細胞腫瘍：Angioimmunoblastic T-cell lymphoma が, Nodal T follicular helper cell lymphoma, angioimmunoblastic type に変わります。また, EBV-positive nodal T- and NK-cell lymphoma が加わります。いずれも本邦から発信された業績が基になっています。

後半は, 福島県で20年余, 神奈川県で18年間, 病理医として過ごしてきましたので, この違いや病理を取り巻く環境について, お話しします。